

# ≡ ◎19世紀フランス絵画といえば・・・「印象派」——？ ≡

19世紀フランス絵画と聞いて、「印象派」を思い浮かべる人は決して少なくないでしょう。まして「印象派」展が星の数ほど開催されてきた日本では、その画家の名を2、3は思いつくことでしょう。印象派を語るとき、必ず触れられるキーワードがあります。「落選者展」、「近代絵画の祖」。いずれもそれまでの旧態依然とした「アカデミスム」に反抗し、華々しくデビューした「印象派」には欠かせないポイントとなっています。

## 革新派、印象派の代表画家

### ● エドゥアール・マネ

【特徴】 「形式的」、「保守的」な絵画を刷新する新しい絵画を描いた。のちに現われた印象派につながる新しい作風。

【活躍の場】 閉鎖的な「サロン」(展覧会)に何度も落選しつつも出品をあきらめず、あくまで当時主流の画壇と対抗しようとした。



エドゥアール・マネ  
《カルメンに扮したエミリー・アンブルの肖像》1880年  
フィラデルフィア美術館  
Philadelphia Museum of Art: Gift of Edgar Scott, 1964  
Photo by: PMA Department Photography

### ● 印象派

【画家】 ルノワール、モネ、ピサロ、シスレー・・・

【作品】 ルノワール《葉と果実の飾りのある二人の若い裸婦》、モネ《ジヴェルニーの積みわら》、シスレー《舟遊び》

【特徴】 印象派の新たな作風を認めないサロンと決別し、作品発表の場から離れ、「印象派展」を独自に開催。

【活躍の場】 「印象派展」などの独自開催展



クロード・モネ 《ジヴェルニーの積みわら》1884年  
ポーラ美術館

# ◎知られざるアカデミスム絵画

では、印象派が反抗した19世紀フランス絵画の主流派「アカデミスム」とは一体どのような絵画だったのでしょうか。

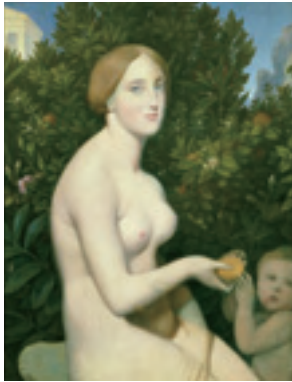
アカデミスム絵画は19世紀フランスで確立した「美術アカデミー制度」のもとに生まれました。美術アカデミーは国立美術学校、1803年に設立されたローマ賞コンクール、そして発表の場としてのサロンから成り立っていました。美術アカデミー会員は終身制で画家の部門はわずか14名で構成され、国立美術学校で教え、ローマ賞やサロンの審査員を務めるエリートでした。

本展はアカデミスム絵画を本格的に紹介する初の試みです。華やかで精緻でみごたえのあるアカデミスム絵画の魅力を存分に紹介します。

## アカデミスム絵画の5つの特徴

### ①神話に題材を採る

当初、アングルは本作を肖像画として構想した。弟子の描いていたパレイ夫人の美しさに感動し、まさにヴィーナスだと肖像を描きはじめたのだ。しかし、その評判の美しさゆえ、パレイ夫人はパリにいられなくなってしまったという。その後アングルはこの肖像を神話のヴィーナスへ描き直した。



ジャン=オーギュスト=ドミニック・アングル&アレクサンドル・デゴッフ  
《パフォスのヴィーナス》1852年頃 オルセー美術館  
©Photo RMN/H.Lewandowski/digital file by DNPpartcom

### ②圧倒的な大きさ

228.5×294cmと大作ぞろいアカデミスム作品の中でも巨作。迫力の大大面に旧約聖書の一説、預言者エレミヤの預言を若い書記バルクが書き取っているシーンを描いた。



アンリ・レーマン、本名カール=エルネスト=ロドルフ・ヘンリッヒ  
《預言者エレミヤ》1842年 アンジェ美術館  
©Musées d'Angers

### ③歴史に着想を得る

斬首されたチャールズ1世の棺を覗き込むクロムウェル。清教徒革命を主題にした歴史画。同時代の文学、シャトーブリアンの「ステュアート朝4代の歴史」から想を得た。

チャールズ1世を見下ろすクロムウェルは冷徹なまなざしで描かれている。



イポリット・ドラロッシュ、通称ポール・ドラロッシュ  
《クロムウェルとチャールズ1世》1831年 ニーム美術館  
©Pierre SCHWARTZ

### ④細密な描写を支える画力

33.9×22cmとサロン絵画としては珍しく小ぶりなサイズ。メソニエは小さい画面に緻密な描写力が人気を集め、メソニエの作品は当時非常に高値で取引された。日常画を描き人気を博したが、晩年は歴史画を描きたいとナポレオン伝説を描くようになった。



ジャン=ルイ=エルネスト・メソニエ 《フルートを吹く男》、または《音楽家》  
1858年 コンピエーニュ宮国立美術館(ルーヴル美術館寄託)  
©RMN / Hervé Lewandowski / distributed by DNPpartcom

### ⑤モチーフは「生」と「死」

コランの《フロレアル(花月)》の題材は、フランスの春爛漫の花の季節を裸婦として描いた寓意画。日本の近代洋画家の多くは、アカデミスムの画家に師事した。コランには黒田清輝が師事した。



ラファエル・コラン 《フロレアル(花月)》  
1886年 アラス美術館  
©musée des beaux-arts d'Arras, photo Claude Thériez

アダムとエヴァが息子アベルの死体を発見した劇的な場面が描かれている。エンネルが3度目の挑戦でローマ賞を受賞した作品。



ジャン=ジャック・エンネル 《アベルの死体を見つけるアダムとエヴァ》  
1858年 パリ、国立美術学校  
école nationale supérieure des beaux-arts, Paris

# ◎19世紀フランス絵画のヌード～アカデミズムと革新派～

肖像画、裸婦、風景画など同じ主題を、アカデミズムと革新派の画家たちがどう描いていたか、異なる流派が織り成す19世紀フランス美術界のダイナミックな展開を浮き彫りにします。

幾度にわたる失敗を経て、ようやくローマ賞を勝ち取ったダヴィッドがローマ滞在中に美術アカデミーより要求された学生用の習作。学生ながら、芸術家としての絵筆の巧みな技巧が存分に発揮されている。



ジャック＝ルイ・ダヴィッド 《男性裸体習作、または《バトロクロス》  
1779年頃 シェルブール＝オクトヴィル、トマ＝アンリ美術館  
Cherbourg-Octeville, Musée d'art Thomas-Henry

ギリシャ神話の一説を描いた作品。愛の抱擁や男女の裸体像を描きたかったための口実にすぎない可能性が高い。



フランソワ・ジェラルール 《ヒュラスとニンフ》1826年  
バイユー、ジェラルール男爵美術館  
©Bayeux-Musée Baron-Gérard

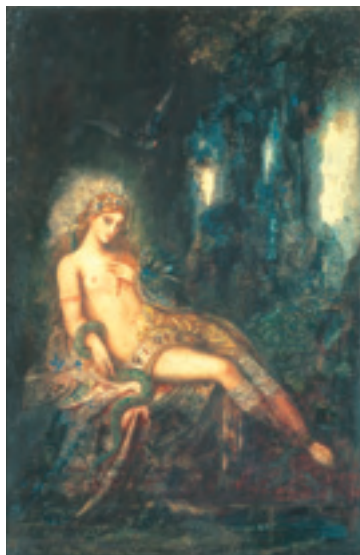
## 皇帝・皇后に買い上げられた「ヴィーナス」



(左)  
アレクサンドル・カバネル&アドルフ・ジュルダン  
《ヴィーナスの誕生》1864年頃 ダヘッシュ美術館  
©2009, Daheesh Museum of Art, New York.  
All Rights Reserved.

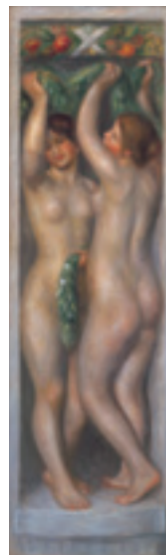
(右)  
ポール・ボードリー 《真珠と波》1862年  
マドリッド、プラド美術館  
Photographic Archive, Museo Nacional del Prado, Madrid

1863年のサロン……この年の出品作には「ヴィーナス」が多く描かれた。  
カバネル《ヴィーナスの誕生》：皇帝ナポレオン3世、ボードリー《真珠と波》：ウージェニー皇后  
それぞれに買い上げられ、観客の人気も2分されたという。



ギュスターヴ・モローは、ローマ賞は逃したが、私費で自らイタリアへ赴き、帰国後にはサロン出品作が国家買い上げとなった。歴史画家の新鋭として将来を囑望されたモローは、それまでのアカデミズム絵画と同様に、神話や宗教的な主題を扱いながらも、絵画表現上はきわめて自由で、独創的な解釈による、象徴的なイメージを創出した。本作は、薄暗い洞窟のなかの光輝く女神を描いた。洞窟の岩肌や、女神の身に着けた装飾具、腕にまぎついた蛇を淡い色ながら、その色彩の対比で幻想的な雰囲気表現している。

ギュスターヴ・モロー《岩の上の女神》1890年頃  
横浜美術館 坂田武雄氏寄贈



ルノワールは陶磁器の絵付師のもとで修行したことから、装飾的で優雅な美のイメージを多く作品に取り入れている。本作はフランスのロココ的な絵画や浅浮彫から影響された華やかな表現が見られる。身体を實在性をもって描き、理想美を追求した伝統的な絵画表現とは異なり、本作では、輪郭を柔らかくぼかした筆触表現が特徴。

ピエール＝オーギュスト・ルノワール  
《葉と果実の飾りのある二人の若い裸婦》1905-10年  
アサヒビール株式会社

## 記念講演会

講師：三浦篤（東京大学教授、本展覧会監修者）

日時：①6月21日（日）15:00-16:30（開場 14:30） 演題「19世紀フランスにおける歴史画の伝統と変質」  
②7月 5日（日）15:00-16:30（開場 14:30） 演題「アカデミズムと前衛—その影響関係をめぐって」

会場：レクチャーホール（聴講無料／先着240名）

## フロアトーク（学芸員によるギャラリートーク）

日時：6月19日（金）、6月26日（金）、7月3日（金）、7月10日（金）、7月17日（金）、7月31日（金）、8月7日（金）、8月14日（金） 各日 15:00-15:30  
会場：企画展示室（当日有効な展覧会チケットが必要です／先着50名）※混雑状況により展示室外でのレクチャーとなる場合がございます。

## 近隣施設とのタイアップ

### ■お得な共通チケット

「フランス絵画の19世紀+横浜ランドマークタワー 69階展望フロアスカイガーデンセット券」の販売。

販売期間：6月12日～8月31日（会期中）

販売場所：展望フロアスカイガーデンチケット売り場、横浜美術館チケット売り場、ローソン（予定）

販売価格：2,000円（予定）



### ■ホテルタイアップ：展覧会にあわせ、近隣ホテルで展覧会にちなんだ魅力的なプランをご用意しています。

#### 横浜ロイヤルパークホテル

○レストラン・ティーサロン・ケーキショップ プラン

・地下1階ケーキショップ「コフレ」にて古典的なフランス菓子を元にしたスイーツを販売予定。（会期中）

・1階ティーサロン「ブルーベル」にて古典的なフランス菓子を元にしたスイーツを含むアフタヌーンティーセットを販売予定。（会期中）

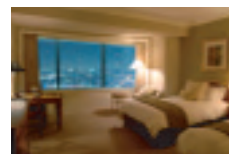
・68階フレンチレストラン「ル シェール」にて19世紀の古典的なフランス料理に現代的なアレンジを多少加えたレディースランチを販売予定。（7月～8月末）

・地下1階カフェ「カフェ フローラ」にて展覧会出品美術館があるフランス各地の郷土料理を元にしたレディースランチを販売予定。（7月～8月末）

○宿泊プラン

52階以上にある客室でのご宿泊と「フランス絵画の19世紀」展の鑑賞券、朝食がセットになった宿泊プランを会期中販売予定。

★問い合わせ：横浜ロイヤルパークホテル 広報 釜本 Tel 045-224-5050（直通）Tel 045-221-1111（代表）<http://www.yrph.com>

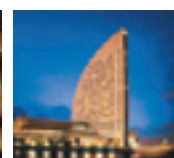


#### ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル

○レストランプラン 「アジュール」にて「フランス絵画の19世紀」展にちなんだメニューを提供。

○展覧会にちなんだ宿泊プランを予定

★問い合わせ：ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル コミュニケーション部  
045-223-2222（代表）<http://www.interconti.co.jp/yokohama/>



#### パン パシフィック 横浜ベイホテル東急

○レストランプラン 「クイーン・アリス」にて「フランス絵画の19世紀」展にちなんだメニューを提供予定。  
展覧会チケット優待あり。

○展覧会チケット付き宿泊プランを予定

★問い合わせ：パン パシフィック 横浜ベイホテル東急 マーケティング 大山  
045-682-2222（代表）<http://pphy.co.jp>



#### ホテルニューグランド

○レストランプラン

・「ル・ノルマンディ」にて「フランス絵画の19世紀」展にちなんだメニューを提供。（6月1日～7月 ※未定）

○宿泊プランを予定

★問い合わせ：ホテルニューグランド 営業企画部 営業企画課 柳原  
045-681-1877（直通）045-681-1841（代表）<http://www.hotel-newgrand.co.jp>



### ■関連イベント

「プリフェア2009inみなとみらい」 2009年6月15日（月）～6月21日（日） ランドマークプラザ

プリザーブドフラワー作品の展示や体験レッスンの他、最終日にはブライダルブーケショーを開催します。  
横浜美術館では関連展示を行います。

★問い合わせ：プリフェア事務局 Tel 03-6676-0117 <http://www.prefair.jp/>



## ◎開催概要

展覧会名 フランス絵画の19世紀 美をめぐる100年のドラマ

会 期 2009年6月12日(金)～8月31日(月)  
休館日：毎週木曜日 ※ただし8月27日(木)は開館

開館時間 10:00-18:00(金曜は20時まで。入館は閉館の30分前まで)

会 場 横浜美術館 YOKOHAMA MUSEUM OF ART 〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1  
TEL 045-221-0300 FAX 045-221-0317 <http://www.yaf.or.jp/yma/>

電車：みなとみらい線(東急東横線直通)をご利用の場合＝みなとみらい駅下車、「美術館口」を出て徒歩3分。  
JR、横浜市営地下鉄をご利用の場合＝桜木町駅下車、「動く歩道」を利用、徒歩10分。  
車：桜木町駅前から日本丸方面へ入る。または桜木町駅前から紅葉坂交差点を右折してMM21地区へ入り美術館へ。  
横浜駅からは高島町MM21地区入口を通過して美術館へ。いずれも3～5分。  
(首都高速「みなとみらいランプ」も利用できます。)  
有料駐車場(10:00～21:00、収容台数148台)：最初の90分は500円、以降30分毎に250円

### 観覧料

	当日	団体	前売
一般	1,400	1,300	1,200
大高生	1,100	1,000	900
中学生	800	700	600

※各消費税込み

○団体券は20名様以上。(会場でのみ販売。要事前連絡：横浜美術館045-221-0300)○小学生以下無料。  
○障害者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料。○毎週土曜日は、高校生以下無料(生徒手帳、学生証をご提示ください)。○「リピーター割引」について：次回ご来館の際に観覧済みの有料チケットをご提示いただくと、団体料金で企画展がご覧になれます(観覧日から1年間、1名様1回限り有効)。

チケット取扱：横浜美術館、JR東日本のみどりの窓口・びゅうプラザ(一部の駅を除く)、電子チケットぴあ(Pコード：688-571)、ローソンチケット(Lコード：34131)、イープラス、サークルK・サンクス、CNプレイガイド、JTB、セブン-イレブン、東急線駅売店toks(一部店舗除く/4/15～6/11前売一般券のみ取扱い)、NEWDAYS(一部店舗除く/6/12～7/11当日一般券のみ取扱い)など各プレイガイドで販売。  
○前売券は6月11日(木)まで販売。

主 催 横浜美術館、日本経済新聞社

後 援 フランス大使館、横浜市市民活力推進局、NHK横浜放送局、財団法人横浜開港150周年協会

協 賛 損保ジャパン、大日本印刷、日本経済新聞デジタルメディア

協 力 日本航空、京浜急行電鉄、相模鉄道、東京急行電鉄、みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、  
横浜市ケーブルテレビ協議会、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社、  
財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー  
◆横浜フランス月間2009参加事業◆

広報事務局 TEL 03-3249-0406 展覧会公式ホームページ <http://www.france19.com/>  
FAX 03-6893-7181  
e-mail [france19@mbn.nifty.com](mailto:france19@mbn.nifty.com)